

# 「もったいない」の心をもった江戸の人々

なぜ江戸時代の人々が  
廃棄物を循環利用することに  
長けていたかというとな



それは人々の心の中に  
「もったいない」の精神が  
あったからじゃろうな

江戸時代の日本では「士農工商」という  
身分制度が敷かれていたが  
それぞれの人々が皆  
ものを循環利用するということを心がけていた



武士 (士)      農民 (農)      職人 (工)      商人 (商)

たとえば支配階級たる武士たちも  
「質素儉約」を美德とし  
節制した生活を送っていたのだ



彦根城のように天守や櫓  
城壁などの建築材料を  
再生利用品でまかなった城まであり



治世者である武士が率先して  
「もったいない」の精神を  
実践しておったことがわかるの

## ◆農民の「もったいない」

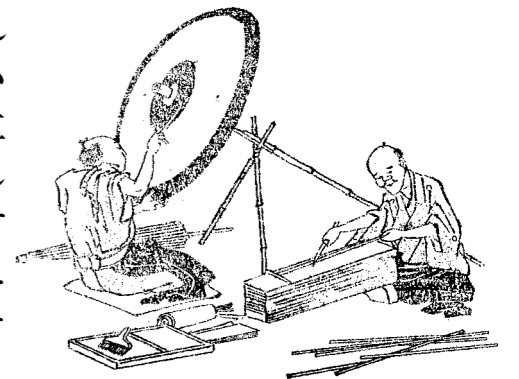


出典：芸州堂版「北斎漫画」

武士による「もったいない」の奨励を受けて、農民も節約に励んでいました。当時の農民は稲作を中心としており、生活用具にも稲作から派生した道具が多く見られます。たとえば、収穫の後に残された稲わらは「衣食住」を彩る必需品として、あらゆる場面で活用されていました。「衣」では編笠、蓑、<sup>みの</sup>「食」では米俵、「住」ではわら細工、むしろなど、すべて稲わらを利用して作られていました。さらに、これらの生活用品は、捨てられてもなお農民の手で集められ、肥料として、再び循環利用されていたのです。

## ◆職人・商人の「もったいない」

職人・商人の間でも「もったいない」は実践されていました。この時代の工業製品は、職人の手作業で作られていました。手間はかかりましたが、資源の無駄を省いた作業が行われていました。例えば、錦絵を印刷する工程では、使用済みの版木を平面に削りなおし、繰り返し使っていました。また、瀬戸物や茶碗を接着して直す焼継屋、鍋や釜を修理する<sup>あきんど</sup>鑄掛屋、傘や提灯の張り替え屋など、「職商人」と呼ばれる人々が、現代のリユース・リペア産業にあたる職で活動していました。



出典：芸州堂版「北斎漫画」

## エコ漫画家・赤星たみこの一言コラム 「もったいない」の心を忘れずに

日本には昔から「物を大切に使う」習慣があります。物を乱暴に扱ったり、まだ使えるのにごみとして捨ててしまうと、両親から「もったいない!」と叱られたものです。物を大切にするのは、作ってくれた人の気持ちを大切にすること。母が57年前に作った着物はほころびが丁寧に繕ってあり、今、私が着ています。これを捨ててしまうのは本当にもったいない。繕ってくれた人の気持ちも、着物も、両方大事にする。これが「もったいない」の心です。

